

学校便り

だしる

自主・向学・協調・練磨

錦江町立田代中学校

令和5年8月21日発行

合い言葉 **やればできる**

戦争や人権について考える月間

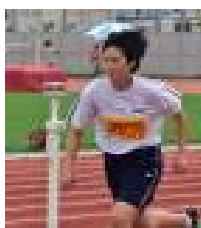
校長 土岐 邦寿

夏休みに入って、1か月が過ぎました。充実した毎日をご過ごしているでしょうか。県総体に出場した皆さん。よく頑張ってくれました。かなり緊張したと思いますが、自分の持てるパフォーマンスを全部出し切ってくれたのかなと思います。この経験を次のチャレンジに活かしてほしいと思います。

8月1日出校日の全校朝会で話をしました。8月は日本に住むものとして忘れてはいけない日があります。8月6日、9日は原爆が広島・長崎に落とされ、多くの方がなくなった日であり、15日は戦争が終わった日です。その日から78年が過ぎました。私を含め、多くの日本人が戦争のことを知りません。私の父は小学校6年生の時、終戦を迎えたとのこと。台湾に移り住んでおり、戦争末期米軍の攻撃で気が休まる日が無かったそうです。グラマン戦闘機に追いかけられ、サトウキビ畑に飛び込んで命が助かったが、大人になってもそのシーンが夢に出てくると言っていました。そのような戦争の話をしてくれる方も少なくなっていました。中学生にとっては曾祖父母ぐらいでないと難しいでしょう。もし、機会があったら話をしてもらってください。

もう一つ大切な月間があります。「人権同和問題啓発強調月間」として、人権同和問題についてみんなで考えることになっています。現代社会では、人権にかかわる様々な問題が話題となっています。インターネット上での誹謗中傷、虐待、いじめ、外国人等への差別・偏見、子ども・高齢者・女性への差別、パワハラ・セクハラ等新聞の紙面を見るだけでも相当な数が上がってきます。特に近年ではSNS上での心ない書き込みから命を落とす若者が問題になっています。私たち一人ひとりが、自分の人権だけでなく、他人の人権についても正しく理解し、一人ひとりの多様性について認め合うことが大切になってきます。ぜひ、家族みんなで人権について考え、話し合う機会をつくっていただけたらと思います。

夏休み後半になってきます。心も体も宿題も整えて、気持ちよく二学期がスタートできることを願っています。下の写真は、県総体で活躍した生徒の様子です。



走幅跳



砲丸投



男子ソフトテニス



野球(上)・走高跳(下)